

お客様価値を創造する アプライアンス商品と技術特集によせて

パナソニック（株）アプライアンス社
副社長・技術担当 今井 淨



本特集では、家庭や社会の幅広い生活シーンで活躍しているアプライアンス商品やデバイスを取り上げます。現在、当社では、ベトナムで冷蔵庫・洗濯機のR&Dセンターを立ち上げていますが、現地技術者は、商品を通じて人々の暮らしを豊かにしたい、事業を通じて国を豊かにしたいという想（おも）いにあふれています。日本の高度成長期の若者を彷彿（ほうふつ）とさせます。一方で、日本の過去の商品を展開するという発想では現代のお客様や社会に通用しません。現地のライフスタイルに合った機能や外観デザインで、最先端の環境性能を備えた商品を提供する必要があります。

グローバルに成長拡大しているアプライアンスの市場に向けて、当社は、「家電」、「空調」、「コールドチェーン」、「デバイス」の4つの重点領域を設定して事業に取り組んでいます。「家電」の事業領域では、冷蔵庫、家事、調理、美容健康、家庭用AV機器、自転車などの商品を開発しています。本特集の招待論文をお願いしたmonogoto社の濱口秀司氏からは、感性重視家電ということで、家電の新しい未来への応援メッセージをいただいています。「空調」の事業領域では、家庭用空調、業務用空調、給湯機器などを開発しています。温室効果ガス削減に向けて新たな冷媒でのヒートポンプ技術の開発を進めています。また、機器販売だけでなく、サービス・メンテナンスと一体の運営の取り組みを行っています。「コールドチェーン」の事業領域では、生鮮食品の流通にかかわる業務用機器を開発しています。生産者から消費者へ食品の品質を維持して輸送・保管するために、環境負荷の小さいCO₂冷媒を用いたショーケースなどの店舗機器の拡充を図っています。「デバイス」の事業領域では、コンプレッサ（冷蔵庫用、空調用）、モータ（産業、車載、設備家電）、ガス用デバイス（メータ、家庭用燃料電池）など、世界中のお客様に魅力あるデバイスを提供できるよう開発を推進しています。

これらの4つの事業領域を支えるコア技術として、「環境コア技術」、「材料・デバイス技術」、「生体科学技術」、

「ITシステム技術」に重点に置いて、ユニークな技術の探求を進めています。「環境コア技術」では、省エネルギーに向けて、次世代ヒートポンプ技術や次世代パワーエレクトロニクス技術、高効率断熱・蓄熱技術の開発をしています。また、省資源の循環型モノづくりに向けた技術の開発をしています。「材料・デバイス技術」では、ユニークなデバイスの創出に向けて、産学連携などにより基本材料から開発する取り組みを行っています。水や空気の浄化技術にも注力しています。「生体科学技術」では、より美しく、より健康でありたいというお客様のニーズに応えるために、生体作用技術や生体計測技術など、基礎的な研究から応用開発まで一貫して行っています。「ITシステム技術」では、設備機器をクラウドにつなげて機器を遠隔サポートするシステムや、次世代スマートハウス技術などの開発を行っています。

このような4つのコア技術を組み合わせ駆使して4つの事業領域の商品を開発していますが、その際に、重要なポイントは、「お客様起点で創る」ことです。お客様やお客様のお困りごとに対して技術者が真摯に耳を傾けて、お客様と一緒に商品を開発して行くことです。「新しい暮らし価値」をご提案できる商品・サービスを世界中のお客様に提供し続けてまいります。

アプライアンス分野では、各地域に適した商品を開発するため、中国・アジアを中心として設計技術者の海外比率が高いのも1つの特徴です。地域ごとに異なる風土や生活習慣に対応するため、商品企画、開発設計、製造販売を現地完結で推進できるような運営の仕組みを志向しています。日本側と現地側、各々でのグローバル技術人材の育成や、ITを活用した技術インフラの構築を行っています。

最後になりますが、アプライアンス商品の開発にご支援いただいている社内外の皆様へ感謝申し上げます。本特集をご高覧いただき、ご意見やご要望をいただければ幸甚に存じます。